

宮本先生のプロフィール



みやもと なおかず（昭和25年、山口県生まれ）
 昭和47年、高知大学卒業。
 昭和49年、大阪教育大学大学院修了。
 昭和51年、追手門学院小学校教諭。
 同学院大学教育研究所員、国立教育研究所研究協力委員等を歴任。
 平成21年から追手門学院大学大学事務部付教育主事。

また、明治25年4月29日には、同日2日に、明治天皇の命で視察に来校した米田侍従が、再び来校され、明治天皇の「猶ホ一層精励ソノ実ヲ挙グベシ」という聖旨を伝えられた。一私学が、明治天皇の聖旨を戴くという事は、破格の事で、この点でもオンリーワンの学校だったといえよう。



大阪偕行社附属小学校正門

また、この視察で、米田侍従は、明治天皇に、「万事ノ秩序整然トシテ礼儀厚ク師道ヲ立テ他日養成スル所必ズヤ忠直純良ノ臣タルベシ」と奏上した。

この時、明治天皇は、非常に喜ばれたということである。

高島鞆之助の社会貢献

その他、創設者高島鞆之助先生は、西南戦争の遺児養育、八甲田山雪中行軍の遺児を預かり、育て、嫁がせている。

明治18年、大阪の大洪水の時、工兵隊を出して天満橋・天神橋を、切り落とし、大阪が水没する危機を救っている。

明治24年、陸軍大臣・高島鞆之助は、「大阪城本丸内の陸軍用地を無償で大阪市に貸与する」と許可を与え、大阪は横浜、函館、長崎に継いで、全国で4番目に、明治28年、水道施設を完成するに至っている。これにより、コレラ等の流行が激減した。

また、この大阪城内の配水池工事中、オーストリアの皇太子フェルディナントが来訪し、「大いなる歴史の地に、いま平和の施設が建設されている」（『日本日記』）と、高い評価を与えている。

さらに、明治45年、東京の自邸をイエズス会に提供。今日、上智大学構内、最古のシンボリックな建物「クルウトウルハイム聖堂」として、

現存している。また、隣接した和風家屋では、乃木將軍と静子夫人のお見合い後、庭の井戸水を汲み、春子夫人がお茶の接待をしたという言い伝えがある。



旧高島鞆之助邸 -クルウトウルハイム聖堂- (吉田浩幸撮影)

実際、今も、伝説の井戸跡が残されている。

一方、新島襄から、同志社大学設立の協力要請を受け、高島が、これに応じている。現在、本井康博著『新島襄の交遊』（思文閣出版）でも、5回も高島先生の名前が登場している。実際、大阪での2度目の会合、明治22年7月24日午後6時、灘万では、200円の寄付をしている。（明治19年当時、教員初任給5円）

この創設者・高島鞆之助の幅広い社会貢献に、ノーブレス・オブリージュの精神を見るのである。

明治の活躍する卒業生

大阪偕行社附属小学校は、明治時代、著名な活躍する卒業生を多数世に送り出している。

例えば、作家、学者に限っても、緒方知三郎（東大名譽教授、文化勲章授賞、M26卒）、山中峯太郎（作家、M28卒）、緒方章（東大名譽教授、M30卒）、石川正臣（日本医科大学名誉学長、M35卒）、高木貞二（東大名譽教授、東京女子大学学長、M37卒）、今東光（作家、参議院議員、M41卒）等。

この2人の緒方教授は、大正3年卒の緒方富雄（東大名譽教授）とともに、江戸時代の適塾・緒方洪庵の一族で、本学を卒業後、東大医学部に進学され、そこで教鞭をとられていた。つまり、大阪偕行社附属小学校の卒業生が、東大医学部に進学し、東大医学部をリードしていたということである。

また、東大で学び、アメリカのコーネル大学で研究した心理学者・高木貞二は、三高時代、湯川、朝永を初め、吉川京大教授、桑原武夫等を教え子にもち、あの新渡戸稲造が学長をしていた東京女子大学の学長を務めている。

わが国トップ級の作家や学者を、多数生み出したのが、追手門学院の前身、大阪偕行社附属小学校であった。

創設者・高島鞆之助先生年譜	年代	年齢	履歴・業績
	弘化1年	0	薩摩国鹿兒島城下高麗町にて高島喜兵衛・貞子の三男として誕生（11月9日）
	文久2年	17	藩主島津久光の守衛として上京
	文久3年	18	奥小姓に任ぜられる。同月上京し同年冬帰藩
	元治1年	19	監軍となり、島羽伏見に戦う（戊辰の役）越後口長岡等に転戦、弾丸にあたり傷をうけて入院する
	明治1年	23	奥州地方を平定し凱旋する
	明治3年	25	御親兵を以て上京し、山口春子と結婚する
	明治4年	26	明治天皇の侍従に任ぜられる
	明治5年	27	明治天皇の侍従番長に任ぜられる。西国巡幸のお供をする（5月）
	明治6年	28	樺太の実況視察に赴く
	明治7年	29	佐賀の乱に赴く。陸軍大佐に任ぜられる
	明治8年	30	陸軍省第一局長兼第一局長代理となる
	明治10年	32	参謀局御用掛兼務する
	明治11年	33	教導団長（全国からの志願者を入学させた下士官養成の学校長となる。明治13年4月まで）
	明治12年	34	長崎地方警備司令官
	明治13年	35	勅使柳原前光、鹿兒島下向に付き、儀衛兵一大隊・三中隊引率し随従
	明治14年	36	衝背軍の提案を行い、別働隊第一旅団司令官となる。（この時の高島を、司馬遷太郎が「翔ぶが如く」で取り上げている。）
	明治15年	37	西南の役終る（9月24日）。凱旋拜謁勅語を賜る
	明治16年	38	乃木將軍と静子夫人のお見合いの媒酌人。春子夫人がお茶の接待をする
	明治17年	39	フランス、ドイツ出張（翌年3月26日帰国）
	明治18年	40	熊本鎮台司令官になる
	明治19年	41	大阪鎮台司令官になる
	明治20年	42	陸軍中将任命、西部監軍部長（明治20年以前の監軍部で、熊本鎮台・広島鎮台を統括する軍団司令官）
	明治21年	43	（明治18年5月18日まで）
	明治22年	44	陸軍大学校学生再審査委員長、中部檢閲
	明治23年	45	演習師団長、大阪鎮台司令官
	明治24年	46	メッセル少佐、高島を表敬訪問。宇治での猪狩を取りやめ、奈良地方へ
	明治25年	47	大阪偕行社「開社の典」を開催。明治天皇行幸、大阪鎮台兵・茨木で天覧野外演習
	明治26年	48	大阪偕行社附属小学校設立（4月3日）
	明治27年	49	第四師団長
	明治28年	50	陸軍大臣（第一次松方内閣）
	明治29年	51	大阪偕行社附属小学校視察
	明治30年	52	枢密院顧問官
	明治31年	53	拓殖総大臣（第二次伊藤内閣）、陸軍大臣（兼任）
	明治32年	54	陸軍大臣（専任）
	明治33年	55	予備役
	明治34年	56	枢密顧問官
	明治35年	57	大正天皇即位式参列（11月10日、京都御所）
	明治36年	58	京都伏見（歩兵第十九旅団長・高島友武少将宅）にて逝去（正二位勲一等旭日桐花大綬章を賜る）
	明治37年	59	元日、明治天皇が眠る伏見桃山御陵参拝、9日朝急に体調を壊し、11日払暁、静かに大往生を遂げた。
	明治38年	60	靈柩は東京駅着、15日午後2時、青山斎場で神式の葬儀が荘重に執行された。儀仗兵2個大隊甲砲発射中、青山墓地に埋葬された。
	明治39年	61	新聞によると、会葬者一千余名と言われている。